

The background features several overlapping circles in shades of pink and grey. A large pink circle is at the top center, and another is at the top right. Below them, there are several smaller circles, some pink and some grey, scattered across the page. The text is centered in the upper half of the page.

町田市 接続カリキュラム

はじめに

近年、社会の高度な情報化により社会変化が加速しています。子どもたちが20年後の未来を生き抜くために、どのような力をどのように育むかが大きな課題となり、幼児教育の重要性が高まっています。幼児期の遊びを通じた学びから児童期の教科学習を通じた学びへ接続する時期において、幼児教育で培った力を小学校の学びへ円滑かつ効果的につなぎ、その力を小学校の学びの中で伸ばしていくことが大切です。

このたび、園や小学校が互いの教育内容を理解し、円滑な接続を目指した取り組みができるよう「町田市接続カリキュラム」を策定しました。このカリキュラムに沿って各園や小学校が円滑な接続を見通したカリキュラムを作成し、日々実践していくことで、接続期の子どもたちがつまずくことなく小学校での生活や学習に馴染み、一人ひとりが豊かで楽しい日々を過ごすよう願っております。

保育者と教員が幼保小連携について互いに理解を深めていくことも重要です。町田市接続カリキュラムでは、町田市が目指す「町田っ子像」「8つの具体的視点」を示しています。これによって、町田市の保育者・教員が接続期における保育・教育を考える際に、同じ目的・方向性を持ち、子どもの育ちを連続性のあるものとしてとらえることができると考えます。ぜひこのカリキュラムの内容を中心に、各園、小学校の先生同士が積極的にかかわり合い、子どもたちの学びの方向性を共有し、課題について議論しながら日々の実践に生かし、町田市の保育・教育全体の質を高めていくことを期待しております。

最後に、カリキュラム策定にあたり、東京家政学院大学准教授 丹羽さかの先生をはじめ、町田市接続カリキュラム検討委員会の方々や、市内の園や小学校の先生方からの貴重なご意見、ご提言を賜りましたことにお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月

町田市長 石阪丈一

はじめに

町田市の人口は、2020年度をピークに減少することが見込まれ、今後、年少人口（0歳～14歳）も急激に減少すると予測されています。また、2030年頃には、AI（人工知能）に代表される技術革新やグローバル化の一層の進展にともなう産業構造や社会の大きな変化が予想されています。さらに、核家族化や単身世帯の増加、人口構成の急激な変化や人々の意識の変化により、家族や社会の在り方が変容しています。このような状況を踏まえ、町田市教育委員会では、これまでの取り組みによる成果や課題を振り返り、町田市が目指す教育の姿の実現に向けて、今後5年間の施策の方向性を示す「町田市教育プラン2019-2023」の策定を進めてきました。これらの内容を踏まえ、この度、子ども生活部と学校教育部が連携し、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るための「町田市接続カリキュラム」を策定いたしました。

町田市の幼児教育は、私立幼稚園37園、公立保育所5園、私立保育所68園によって支えられております。子どもたちのよりよい育ちのために、町田市では、2016年度から幼保小連携推進事業を本格的に立ち上げ、2年間にわたり、幼稚園・保育所と小学校の先生方を中心に、東京家政学院大学准教授 丹羽さかの先生に御指導をいただきながら、実践を基にした検討を重ね、就学前から入学後にかけての接続期のカリキュラムを作成いたしました。今後は、これを礎にして各園・各小学校において、「町田市接続カリキュラム」が積極的に活用され、町田市の一人ひとりの子どもを育む保育・教育活動の充実に資することを期待しております。

最後になりましたが、本カリキュラムの策定にあたりまして、東京家政学院大学准教授 丹羽さかの先生をはじめ、町田市接続カリキュラム検討委員会の委員の皆様、町田市私立幼稚園協会、町田市法人立保育園協会、町田市公立小学校長会、町田市公立小学校教育研究会、その他関係機関の皆様のご尽力に厚くお礼申し上げます。

2019年3月

町田市教育委員会 教育長 坂本修一

町田市接続カリキュラムのスタートに向けて

ここに、町田市の接続期カリキュラムが完成しました。これは5歳児後半から小学校1年生前半までの、町田市の保育・教育のスタンダードです。このカリキュラムを策定する目的は大きく二つです。一つは、どの幼稚園、保育所、認定こども園に通っていても、町田市の大切にしている、育てたい子どもの姿を軸に、質の高い保育・幼児教育が提供されること。もう一つは、そこで育まれた力が小学校で十分に発揮されることで、さらに子どもたちが伸び、育っていくこと。それらを実現するためのカリキュラムなのです。

接続期カリキュラムの作成にあたっては、町田の子どもたちの現状を最もよく知る市内の幼稚園、保育所、認定こども園、小学校の先生方が検討委員となり、町田の子どもたちに育みたい力を話し合いました。アプローチ・スタートカリキュラムは、この育てたい子どもの姿を念頭に置き、各園・小学校・地域の実情に合わせて作成するものです。アプローチ・スタートカリキュラムの作成にあたっては、園の先生方、小学校の先生方が、お互いの専門性を尊重しながら、それぞれの子どもたちの姿のとらえ方や教育方法について、違いや共通性を理解し合うことが必要です。お互いの学び合いにより、子どもの育ちをより長いスパンでとらえることが可能となります。その上で、それぞれの時期に最もふさわしい教育の在り方を考え、カリキュラムに反映させていってほしいと考えます。

接続カリキュラムが実践されることで、園と小学校の距離が近づくこと、一貫し連続したカリキュラムによって、町田の子どもたちがその力を最大限発揮しながら「なかよく・わくわく・いきいき」育っていくことを、心より願っております。

2019年3月

東京家政学院大学 准教授 丹羽さかの

目次

第1章	町田市接続カリキュラムについて	6
第1節	町田市接続カリキュラムの特長	6
第2節	町田市接続カリキュラム策定の背景	8
第3節	町田市の幼保小連携への取り組みと課題	14
第2章	町田市接続カリキュラム	19
第1節	円滑な接続を考えるために	19
第2節	「町田っ子像」と8つの具体的視点	20
第3節	接続期に育てたい内容と保育者・教員の支援	23
	・接続期のカリキュラムの全体図	24
	・つながりシート	26～41
第3章	町田市接続カリキュラムの作成方法	42
第1節	アプローチカリキュラム	42
第2節	スタートカリキュラム	50
第4章	接続を支える幼保小の交流・連携	54
第1節	交流・連携の取り組み	54
第2節	交流・連携の進め方	59
第5章	接続を支える家庭との連携	60
	column「わたる前 止まった車に 目であいさつ」	67
第6章	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践例	68
	アプローチカリキュラム実践例	
	・交通安全教室で交通ルールを学ぼう！	68
	・異文化にふれよう！	69
	・音はなぜ出るの？	70
	・電車ごっこ	71
	スタートカリキュラム実践例	
	・朝のスピーチをしよう	72
	・さあ はじめよう(国語科) きょうから 1ねんせい(生活科)	73
	巻末資料 幼保小連携に関する実態調査 アンケート分析結果	74
	ご協力いただいたモデル園・モデル校	94
	町田市接続カリキュラム検討委員会	95